

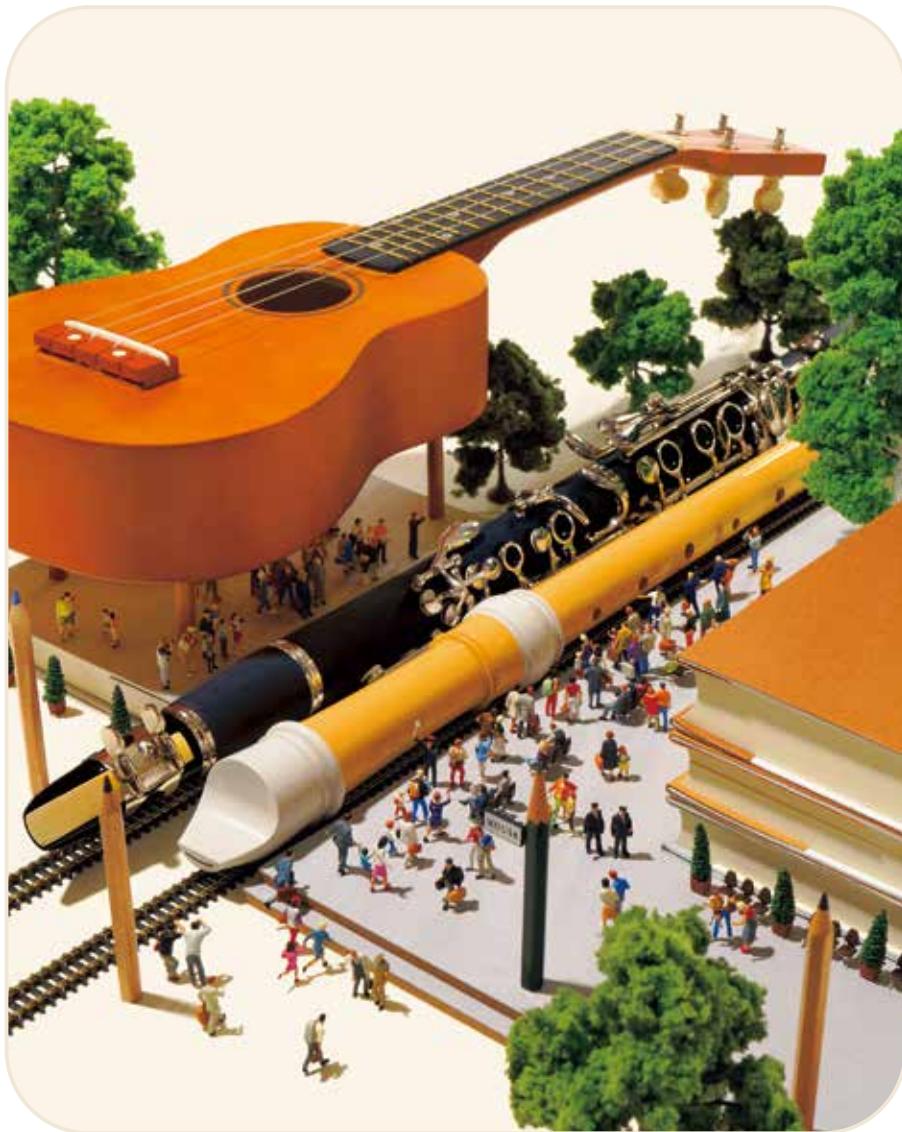
MOUSA 1

ムーザ

令和6年度 高等学校用教科書 音楽 I

27教芸 (令和6教 内容解説資料)

この資料は、一般社団法人教科書協会の定める「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。



目次

MOUSAの特徴	3	創作	13
改訂のポイント1	4	鑑賞	14
改訂のポイント2	6	資料	15
改訂のポイント3	8	年間指導計画例	16
歌唱	10	指導書について	18
器楽	12	検討の観点別に見た特色	19

MOUSA は、
ムーザ

「卒業後も手元に残しておきたい教科書」であることを

刊行以来のコンセプトにしています。

令和4年度から使用されているMOUSA1では、

音楽の魅力をさらに多面的に学べるようにしています。



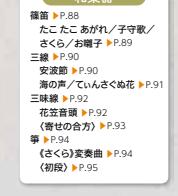
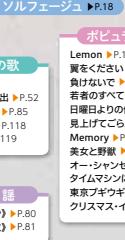
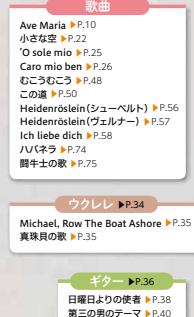
特徴 1

授業スタイルに合わせて選曲することができる！

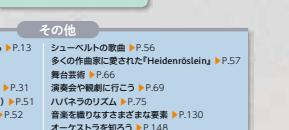
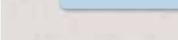
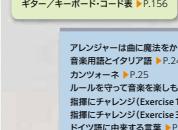
■さまざまなジャンルから教材性の高い曲を厳選

「ジャンル別 MAP」を示すことで、生徒が幅広く音楽と関わることができるよう、また、多様な状況に対応できるよう配慮しています。

ジャンル別 MAP【歌唱・器楽編】



【資料編】



(P.8~9 ジャンル別 MAP)

特徴 2

どの教材も扱いやすい！

■生徒に日々接している先生方の実践的なアイディアを具現化

MOUSA1に掲載している歌唱や器楽の全ての教材については、著者と編集部が試演を重ね、音域や演奏のしやすさなどを検討しました。また、創作では、生徒が取り組みやすいよう手順を示しています。



(P.86~87)

特徴 3

丁寧な学習プロセスの提示！

■生徒が達成感を得られる内容

これまでの個々の音楽経験に関係なく、全ての生徒が「楽譜を読めるようになった」「楽器を演奏できるようになった」と実感できるよう、段階を踏んで取り組める内容になっています。



(P.36~37)

新しい MOUSA 1 改訂のポイントは――

ムーザ

1

分かる・できる

2

コミュニケーション力

3

学びに向かう力

改訂の
ポイント
1

分かる・できる

生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力の育成と、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指します。

▼作曲家の生涯と作品から学ぶ音楽文化と歴史

作曲家の生きた時代背景や当時の生活などについて深く知ることができる「クローズ・アップ・マエストロ」。
J.S.バッハと、W.A.モーツアルトを取り上げています。

J.S.バッハの活動拠点をもとに時代を分け、そのときに作られた代表曲を挙げています。

142


J.S. バッハ
鑑賞のポイント

- 作曲家の生涯をたどりながら音楽を味わおう。
- さまざまなジャンルの音楽に触れ、それぞれの作品の特徴を聞き取ろう。



氏名	ヨハン・セバスティアン・バッハ Johann Sebastian Bach
出典地	ドイツ（当時は神聖ローマ帝国）
生没年月日	1685年3月21日（ライプツィヒ）～1750年7月28日（ライプツィヒ）（享年65）

音楽学習題

幼年時

1694年（9歳）

1700年（15歳）

1705年（20歳）

ヨハニ・ペテロ・バッハ（1645～1695）

ディートリッヒ・ブックスフーデ（c.1637～1707）

ケーリング・レオポルト（1694～1760）

アンドレア・ゼラーネ（1701～1760）

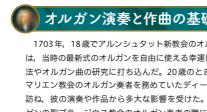
カーティ・ブリック・エマヌエル・バッハ（1714～1788）

音楽家と旅

J.S.バッハの作品に付されている「BWV番号」は、ドイツの音楽学者ヘルムフランク・シュミーダー（1901～1990）によって編纂された「J.S.バッハ作品目録（Bach Werke-Verzeichnis）」の記号によるものである。この記録では、バッハの作品がジャンルごとに整理されている。

139ページ バッハの音楽

143


オルガン演奏と作曲の基礎を築いた青年時代

1703年、16歳でルンゲッシュット新教会のオルガン奏者となったバッハは、当時の最新式のオルガンを自由に使える幸運に恵まれ、オルガンの演奏法やオルガン曲の研究に打ち込んだ。20歳のときは、リュベックの聖マリエン教会のオルガン演奏者を務めていたディートリッヒ・ツフーフェを訪ね、彼の演奏と作曲から多くの影響を受けた。07年に「ミントハウゼンの聖フライジウス教会のオルガン奏者の職に就き、同年、マリア・パルバッハと結婚した夫の子たちもいる。このうち長男ヨハン・フリードマンと次男カル・フリードリッヒ・エマヌエルは後に高名な音楽家になった。08年、ザクセン・ツヴァイマル公国の宮廷オルガニスト兼常任楽団となり、数多くのオルガニズムを作曲した。



トッカータとフーガ二重調 BWV144

バッハのオルガン曲の中でも最も有名な作品の一つとしてよく知られる、自由な形式のトッカータで序曲を構成する。序曲部を用意的に技術的な短い旋律などとの特徴的な要素を即興的で演奏される。次いで（P.133）が展開部で、最後に再びトッカータ部分が戻される。この作曲は、自筆譜がないことなどから、他の作曲家によるものといわれている。29年、ライプツィヒのレクーム・イン・クラム（大学学生が創設する音楽会団体）指揮者として招かれ、彼らのために世界的な音楽作品多くを作曲した。また、音楽界においては高い評価を得た。多くの楽譜が出版された。

教會音樂を生み出したライヴツィヒ時代

1723年、バッハはライヴツィヒの聖マリエ教会のカントル（キリスト教牧師の指導者）で、教會における音楽事業を司る役職に就任した。この職務は多岐に亘り、毎日禮拝のために教会コンサートを開き、その演奏の指導もした。しかししながら、彼の勤勉さや優れた功績は正直に評価され、待遇をめぐって彼女や執事が彼を慕ったからか、教会本部への情熱が薄れていった。29年、ライプツィヒのレクーム・イン・クラム（大学学生が創設する音楽会団体）指揮者として招かれ、彼らのために世界的な音楽作品多くを作曲した。また、音楽界においては高い評価を得た。多くの楽譜が出版された。

＊カタログ：新年度用にいたる音楽作品で、楽譜、楽器、楽譜などによって選ばれる目次が果たす役割。

＊カタログ：楽譜は、礼拝で行われる祭典の内などを記してある目次が果たす役割。

聖トマス教会とトマス学校

(P.142～144)

音楽学習歴も掲載

▼ 発声の基本と実践

基本的な発声法を身に付けるための最適な教材《Ave Maria》を扱ったこのページは、1年を通して活用することができます。

10

アベ・マリーフ
作曲者不詳／内藤洋一編曲
Ave Maria

76-80

11

作曲者はイタリアのジュリオ・カッチャニ(1545-1618)といわれていたが、今ではロシアのギター、リュート奏者で作曲家のクラディー・ミル・ワヴィロフ(1925-1973)であるという説がある。

VOICE TRAINING

ヴォイス・トレーニング

◎ 歌うときに、まず気を付けたいことは姿勢と呼吸。

日常生活の中では、肩が内側に入り、前かがみの姿勢になっていることが多い。このような姿勢では息を十分に吸うことができないので、歌うときに胸を開き、おへその下辺りに少し力を入れた状態で立つ(座る)といい。

また、上半身が硬い息息が入りにくいので、軽く体を動かして柔らかくしよう。さらに、息をコントロールしながら吐き出すことも大切だ。

◎ 息をコントロールして歌うためには、リップロールや母音場で長く息を出す練習が効果的。

息の強さや長さが一定に保たれていないと、音をのばしている間に音高が不安定になったり声が揺れたりしてしまう。まずはリップロールやOやUの母音場で自分の息の強さや長さを確認してみよう。また、母音場の際は唇や顎に力を入れすぎないようにしよう。

◎ 声をよく響かせるためには、ハミングで歌う練習が効果的。

ハミングで歌うと、鼻の一部分がビリビリと震える。そこを意識して響きの感覚をつかむことができたら、下の譜例のようにまず“Hum.”で響きを確認し、次は“Ma”的発音に移行する練習をするとよい。音が下行するところではおなかの支えをしっかりと保ち、最初の音の響きのまま歌うようにしよう。

リップロール

（Q&A）『Ave Maria』を歌う際に――

Q1：長いフレーズをたっぷりと歌うためには、どのように息を付けてよいですか？

A1：息を吐く際に、体を外側へ広げていくイメージをもちましょう。

Q2：息を吐き出す際は、体がしづぶんにくいくらいにイメージしがちです。しかしこれでは呼吸が安定せず、長くのばしている音がだんだん弱くなったり、音高も下がってまいります。逆に、体を外側へ広げていくイメージをもつと、息の流れを安定させることができます。背が下り下げるところで、おなかの支えをしっかりと保ち、胸も開じないようにしましょう。

Q3：上行して練習する音(10小節目など)をレコードで歌ってください。

A2：音が変わるとときに息の流れが止まらないよう、うためには、どのように息を付けるよろしくお願いします。

跳躍する音の間に音階の構成音を加えて母音で滑らかに歌った後、もとの音だけを歌う練習を繰り返すとよいでしょう。

Q4：25小節目からの高音をきれいに歌うためには、どのように息を付けるよろしくお願いします？

A3：最高音が力みなぎるように、フレーズの始まりから最高音を意識するようにしましょう。

（Q&A）『Ave Maria』を歌う際のポイントをQ&A形式で掲載

(P.10-11)

「ヴォイス・トレーニング」は、《Ave Maria》だけでなく、他の歌唱教材にも生かすことができます。

VOICE TRAINING

ヴォイス・トレーニング

◎ 歌うときに、まず気を付けたいことは姿勢と呼吸。

日常生活の中では、肩が内側に入り、前かがみの姿勢になっていることが多い。このような姿勢では息を十分に吸うことができないので、歌うときに胸を開き、おへその下辺りに少し力を入れた状態で立つ(座る)といい。

また、上半身が硬い息息が入りにくいので、軽く体を動かして柔らかくしよう。さらに、息をコントロールしながら吐き出すことも大切だ。

◎ 息をコントロールして歌うためには、リップロール[※]や母音場で長く息を出す練習が効果的。

息の強さや長さが一定に保たれていないと、音をのばしている間に音高が不安定になったり声が揺れたりしてしまう。まずはリップロールやOやUの母音場で自分の息の強さや長さを確認してみよう。また、母音場の際は唇や顎に力を入れすぎないようにしよう。

◎ 声をよく響かせるためには、ハミングで歌う練習が効果的。

ハミングで歌うと、鼻の一部分がビリビリと震える。そこを意識して響きの感覚をつかむことができたら、下の譜例のようにまず“Hum.”で響きを確認し、次は“Ma”的発音に移行する練習をするとよい。音が下行するところではおなかの支えをしっかりと保ち、最初の音の響きのまま歌うようにしよう。

リップロール

（Q&A）

Q1：頭や肩が前傾しないようにする。
Q2：軽く頸^{くび}を引く。
Q3：背^{せき}筋^{きん}を伸ばす。
Q4：息を吸うときは、脇^{わき}全体を広げるようになる。

（Q&A）

Q1：長いフレーズをたっぷりと歌うためには、どのように息を付けてよいですか？

A1：息を吐く際に、体を外側へ広げていくイメージをもちましょう。

Q2：息を吐き出す際は、体がしづぶんにくいくらいにイメージしがちです。しかしこれでは呼吸が安定せず、長くのばしている音がだんだん弱くなったり、音高も下がってまいります。逆に、体を外側へ広げていくイメージをもつと、息の流れを安定させることができます。背が下り下げるところで、おなかの支えをしっかりと保ち、胸も開じないようにしましょう。

Q3：上行して練習する音(10小節目など)をレコードで歌ってください。

A2：音が変わるとときに息の流れが止まらないよう、うためには、どのように息を付けるよろしくお願いします。

跳躍する音の間に音階の構成音を加えて母音で滑らかに歌った後、もとの音だけを歌う練習を繰り返すとよいでしょう。

Q4：25小節目からの高音をきれいに歌うためには、どのように息を付けるよろしくお願いします？

A3：最高音が力みなぎるように、フレーズの始まりから最高音を意識するようにしましょう。

（Q&A）『Ave Maria』を歌う際のポイントをQ&A形式で掲載

コミュニケーション力

「主体的・対話的で深い学び」を実現し、思考力、判断力、表現力等を育てます。

▼ 個々の創造性を育むとともに、グループ活動によって協働しながら主体的に取り組むことができる教材

ボディー・パーカッションは楽器を用いないため、無理なく取り組むことができます。

30

リズムの重なり合いを意識して音色や音量を工夫して演奏しましょう

Plymouth Rock

ブリマス ロック

In a Rock style $\text{J}=80\sim88$

マレイ・ホーリー作曲

I. IIともに I. IIともに

手拍子 手拍子 足踏み 足踏み

(P.30・31)

強弱や音色の
工夫について説明

31

手拍子や足踏みの方によって音色が異なることに気付き、それを生かした演奏をしてみよう

ボディー・パーカッションを楽しもう

(Plymouth Rock)は手拍子と足踏みだけで演奏する曲である。パートの役割を考えながら、手拍子や足踏みを工夫して楽しもう。

①全員が I と II の両方のパートを演奏できるようになったらグループに分かれ、どのように工夫したらより楽しいアンサンブルになるのかアイディアを出し合って練習しよう。

②グループ練習をするときには、A→Bの中から部分的に取り出してもいいなど、練習方法を工夫しよう。

③試奏しながらグループで話し合って、よりよい演奏を目指そう。

④各グループの表現の工夫に注目しながら、互いのアンサンブルを聴き合おう。

演奏の工夫

- 強弱記号の書かれていない部分についても強弱の変化を考える。
- 強弱に合わせて手拍子の打ち方や足踏みの仕方を考える。
- 各パートのリズムの特徴を感じ取り、自立させて演奏するリズムと、逆に自立させないように演奏するリズムを決め、抑揚を付ける。
- 手拍子や足踏み以外のボディー・パーカッション(指鳴らしや膝打など)も取り入れる。
- (Plymouth Rock)に合うような曲の楽譜を持ち寄り、それに合わせて演奏する。

▼ グループ活動に効果的なアンサンブル教材が豊富

動画サイトで話題となり、2012年公開のミュージカル映画にも使われた『Cups』のパフォーマンスをもとにした教材を取り上げています。

32

身近にあるコップ(紙製もしくはプラスチック製)を使い、手拍子や机を打つ音と組み合わせて、リズムを演奏しよう。

コップを机に置く際、飲み口側と底側のどちらを下にするかによって音は変わる。また、底側であっても、全体を机に付けるか、一部分を付けるかによって音が変わる。自分たちのイメージする音色を目指して、何度も試しながら音の出し方を工夫しよう。

STEP 1 動作を覚えよう

以下の5つの動作を覚えよう。

※1:どちらも机にこすって音を出す。※2: カンは飲み口側。レンは底側を。コップを机で強く叩くと、底側は軽く叩くと、底側は軽く打って弾ませる。

STEP 2 リズムを演奏しよう

コップを伏せた状態にセットする。演奏する前にリズムを読んで覚えておくとよい。

(P.32・33)

33

STEP 3 グループで演奏しよう

4~8人ぐらいのグループを作り、輪になって演奏しよう。その際、最後の「カン」のとき、右隣の人の前にコップを置くと、コップを回しながら演奏することができる。また、「バン」のときは手拍子を打つ代わりに両隣の人と手を打ち合わせるなど、いろいろなアイディアを出し合って自分たちなりのパフォーマンスを考えよう。

右隣の人の前に
コップを置く

両隣の人と手を
打ち合わせる

オリジナルのリズムをつくろう

いくつかの短いリズム・パターンをつくり、それらをつなぎ合わせてもよい。リズム・パターンをつくる際は、音を出しながら組み合わせを考え。文字の太さや大きさなどで、音の長さや音色の違いが分かるように記譜の仕方を工夫しよう。



音色を工夫して楽しむ
キーボード・
アンサンブルも掲載

42

ミッション: インポッシブルのテーマ (テレビ・ドラマ『スパイ大作戦』から)

パートの役割を考え、リズムに合せてキーボード・アンサンブルをしよう

A: ラロ・シフリン作曲/齊田琴編曲

$\text{J}=168\text{くらい}$

(P.42・43)

▼ [共通事項]を手がかりに学習を進めることができる教材

「音楽を織りなすさまざまな要素」を参考に、音楽の要素が曲想とどのように関わっているのかを主体的に捉えることができます。



音楽を形づくっている 要素について分かりやすく解説

130

音楽を織りなすさまざまな要素

音楽は、さまざまな要素が関わり合ってできている。これらの要素の動きを理解し、表現や鑑賞の学習に生かそう。

音色 音量や音の高低にかかわらず特有の音として認識できるものなど

声：女声／男声
曲種に応じた声（オペラの声／日本の長調の声）
楽器：いろいろな楽器の音色
美濃よ音色の違う（ピアノの音／尺八のメロやカリ／打楽器の打つ場所による音の違い）
身の回りの音：自然音や環境音

リズム 拍や拍子、曲を特徴付けているリズムなど

拍：音楽の流れの中で等間隔で刻まれる時間の単位
拍子：拍のまとまりにみられる周期性
いろいろなリズム
3連符 ウィング
シンコペーション
（音のすべて）
まなづの ピー ク グーカー 大

世界の諸民族の音楽や日本の伝統音楽のリズム：

拍節のある（拍のない）リズム（アリラン／ハ太鼓）
無拍節のある（拍のない）リズム（オルティンド／拍子記号）
間

速度 速度（テンポ）の設定、変化、緩急の対比など

一定の速度：メトロノーム記号（♩ = 60）
速度用語（Moderato, Allegro など）

速度の変化：rit., accel.

日本の伝統音楽における速度の変化：序破急

※だいに速くなる速度を表す際用いられる。

旋律 音のつながりやフレーズ、旋律を生み出す音階や調など

旋律の性格付けに影響を与えるもの：音階、調性、音程、音域

進行（連続する2音の高低の変化）の種類：

上行 ↑↑ 下行 ↓↓
「順次進行」 「跳躍進行」

テクスチュア 和音や和声、音や旋律の重なり方など

モノフォニー：単旋律
ボリューミー：複数の独立した旋律の組み合わせ（ワード・複数）
ホモフォニー：主旋律と和声的な伴奏の組み合わせ（歌から歌をきく）
日本の伝統音楽の音や旋律の重ね方

強弱 音量の設定、強弱の変化や対比など

一定の強弱を示す記号：pp, p, mp, mf, f, ff
強弱の変化を示す用語：dim., decresc., cresc.

形式 楽曲形式、形式にとらわれないスタイルなど

通常、8小節のまとまりを「大楽節」といい、「続く感じ」の4小節ごとに終わる感じの後半4小節に分けることができる。この4小節のまとまりを「小楽節」と呼ぶ。説明の際、大楽節にはA,B,C、小楽節にはa,b,cを用いることが多い。
二部形式：例①A(a a') B(b b') ②(a a') B(b')
三部形式：例①A(a a') B(b b') A(a a')
②A(a a') B(b b') A(a a')
ロンド形式：例①A-B-A-C-A ②A-B-A-C-B-A
ソナタ形式：例[呈示部] [展開部] [再現部] [締め] 日本の伝統音楽における形式：序破急

※ははじめ～かおわりという形式上の3つの区分。

構成 反復、変化、対照、主題の扱いなど

主題の對比
ベートーベン：交響曲第9番（合唱付き）から第4楽章
「歎息の主題」
「悲愴の主題」
ジャズの演奏の構成例
イントロ → テーマ → ソロ → テーマの再現 → エンディング
※各プレイヤーが順番に即興演奏を展開する。

その他の要素

作曲者の意図や表現の様式／地域や民族、時代による違い
演奏者による解釈の違い／他の芸術との関わりなど

音楽の要素とイメージをつなげよう

▶組曲《動物の謝肉祭》 カミュー・サン＝サーンス作曲

組曲《動物の謝肉祭》は、フランスの作曲家サン＝サーンス（1835～1921）によって、彼の友人が主催するマルディ・グラ（謝肉祭の最終日）の音楽会で私的に楽しむために作られた。さまざまな動物が描かれたこの作品では、既存の曲のフレーズをパロディー（他の作品を滑稽に取り替え、風貌をきかせたもの）として用いているなど、ユニークな表現がみられる。サン＝サーンスの趣向により、彼の生前は第13曲（白鳥）を除いて出版と演奏が禁じられていたが、1922年に初めて公の場で演奏されたのがきっかけに、広く世に知られるようになった。

鑑賞のポイント

それぞれの動物を表現するために、音楽の要素がどのように関わっているのか考えよう。

●組曲は14の短い曲で構成され、それぞれにタイトルが付けられている。

- 1. 序奏と堂々たるライオンの行進
- 2. 鶴踊と雄鶴
- 3. らば
- 5. 象
- 6. カンガルー
- 7. 水族館
- 8. 耳の長い紳士
- 9. 森の奥のかっこう
- 10. 大きな鳥籠
- 11. ピニースト
- 12. 化石

13. 白鳥

14. 終曲

※第14曲（終曲）では、これまでに登場した動物などが次々と現れる。



●2台のピアノを中心下のような楽器で演奏される。曲ごとに編成は異なる。

- フルート（ピッコロ持ち替え）
- クラリネット
- 鼓（クロック）*
- 木琴（シロフォン）
- ビアノ I, II
- ギタリスト
- チエロ
- コンツラバス

*本来は「グラス・ハーモニカ」と指定されているが、希少楽器のため、現在は「鼓（クロック）」または「チャレスター」で代用されることが多い。

●組曲は聴き、130ページを参考に、「音楽を織りなすさまざまな要素」の観点からそれぞれの曲の特徴を捉え、言葉で表そう。

タイトル	楽曲の特徴					
	音色	リズム	速度	旋律	強弱	構成、その他
1 序奏と堂々たるライオンの行進	弦楽器とピアノ。 硬い感じ。	規則的。重々しい感じだが躍動感もある。	ライオンが堂々と行進する姿が思い浮かぶようだ。落ち着いたテンポ。	ライオンが堂々と行進する姿が思い浮かぶようだ。落ち着いたテンポ。	スラーピックアートが特徴的で、少しあどけたような印象を受ける。	全体的に強いが、終盤にメロディーがいったん弱くなり、まただんだんと盛り上がり終わる。
2						

②気に入った曲を選び、その特徴や感じたことを文面にまとめよう。

③

（体験）「序奏と堂々たるライオンの行進」

絆いは奈の後、「百獣の王」ライオンの堂々とした行進が始まる。威厳に満ちた足取りがユソソで表記され、重々しい威儀だが、スラーピックアートが少しあどけたような躍動感を与えている。曲の途中でライオンのうなり声のような低音と、ファンファーレやライオンのうなり声の高音が交互に競こえてきて、

規則正しい曲調に変化がもたらされ、メリハリのある楽曲にまとめられている。

④まとめた内容を発表し合い、意見を交換しよう。

(P.130・131)

音楽の特徴を 言葉で表現

音楽の特徴を捉えよう

①組曲を聴き、130ページを参考に、「音楽を織りなすさまざまな要素」の観点からそれぞれの曲の特徴を捉え、言葉で表そう。

タイトル	楽曲の特徴					
	音色	リズム	速度	旋律	強弱	構成、その他
1 例 序奏と堂々たるライオンの行進	弦楽器とピアノ。 硬い感じ。	規則的。重々しい感じだが躍動感もある。	ライオンが堂々と行進する姿が思い浮かぶようだ。落ち着いたテンポ。	ライオンが堂々と行進する姿が思い浮かぶようだ。落ち着いたテンポ。	スラーピックアートが特徴的で、少しあどけたような印象を受ける。	全体的に強いが、終盤にメロディーがいったん弱くなり、まただんだんと盛り上がり終わる。
2						

学びに向かう力

学びに向かう力、人間性等を育てます。

▼ グループの会話を参考に《Caro mio ben》を分析

「主体的・対話的で深い学び」の本質に触れることができます。

28

Caro mio ben 大解剖!

下に示したグループの会話を参考に、「Caro mio ben」の旋律や構成などについて、グループで分析しよう。そして、その内容をもとに、より表現豊かな演奏になるよう工夫しよう。

Point ① 旋律が3拍目から始まる。
この曲では、旋律が「1, 2, 3, 4」ではなく「3, 4, 1, 2」という拍数交代であります。

Point ② 初めて音が跳躍する。
1拍目が歌い始めるよりも、旋律が次につながっていく感じがします。

Point ③ 音の密度が変化する。
同じく2小節目で下行形が2回続いた後、3回目の終わりで音が跳躍しています。

Point ④ 連続して音が跳躍する。
リズム付合音符ではなくて、歌詞が大切に歌われている感じがします。

Point ⑤ 旋律がピアノで演奏される。
歌の旋律は「Caro mio ben」と歌われる旋律をピアノだけで演奏しています。

Point ⑥ 曲頭の旋律が再現される。
曲頭の旋律がピアノで再現され、その後は「senza di te」の旋律が「caro mio ben」と歌われています。

楽典 150ページ

参考用語
リズム、密度、構成などについての語彙の読み方

楽典 150ページ

29

Point ① 旋律が3拍目から始まる。
この曲では、旋律が「1, 2, 3, 4」ではなく「3, 4, 1, 2」という拍数交代であります。

Point ② 初めて音が跳躍する。
同じく2小節目で下行形が2回続いた後、3回目の終わりで音が跳躍しています。

Point ③ 音の密度が変化する。
リズム付合音符ではなくて、歌詞が大切に歌われている感じがします。

Point ④ 連続して音が跳躍する。
今までは、ほほ順次進行だったので、この部分がより引き立って聞こえませんが、正しく歌いはとても嬉しいです。

Point ⑤ 旋律の雰囲気が変化する。
ここが軽調しています。

Point ⑥ 旋律の雰囲気が変化する。
旋律が上行形に変わっています。

Point ⑦ 歌の旋律が「f」が現れる。
この「f」によって、「Cessa (やめてくれ)」という思いが強く表現されています。

楽典 150ページ

参考用語
リズム、密度、構成などについての語彙の読み方

楽典 150ページ

(P.28・29)

► 表現方法について 深く考えることができる 指揮の実習

指揮の基本的な動きを身に付ける
ことができます。

指揮の振り方を
丁寧に解説

51

指揮にチャレンジ!

指揮者は、合図や合奏をまとめて大切な在である。演奏の始まりや終わりのタイミングをそそたり、テンポを指示したりするだけでなく、演奏者に音楽的なニュアンスを伝えてアンサンブルの統一を図るという重要な役割も持っている。

以下のExerciseを参考にして、より見やすく、演奏者に指が伝わりやすい指揮を目指そう。

Exercise 1

指揮をするときの正しい姿勢と基本的な動きを身に付けてみよう。

①腕の肘から前腕まで一直線になるように意識しながら、右手が鏡の正面にくる位置で構える。

②腕は自然に腰の横に下ろす。

③メトロノームに合わせて拍子を握ってみると、ボールが腰に下して腕を返せる動きをイメージしながら、腕を握り下ろして握り上げる。その際、打点(拍の位置)がおおむね前に回りにくくなるように意識する。これは指挥の最も基本となるテクニックで、「前さき」とも呼ばれる。メトロノームのテンポ設定をえて、さまざまなテンポで練習することよい。

④打点から腰に回る瞬間を聞いて、腰や腕に力が入らないように注意しよう。振り下ろすときに自然に加減し、振り上げるときは自然に減速しよう。

⑤感觉をつかんだら、メトロノームを使わずに1拍子を握ってみよう。

⑥腰を前にしてテンポを設定し、それをキープしよう。

⑦同様に、2拍子、3拍子、4拍子を「叩き」で握る。

⑧各拍の打点が同じ位置になるように握ろう。

Exercise 2

演奏する時の雰囲気と合った指揮ができるよう、さざざまな指揮方針に身につけよう。いつもはメトロノームに合わせて2拍子、3拍子、4拍子を練習し、感覚をつかんだりメトロノームを使いつぶつと練習しよう。

①ゆっくりとした動きや強弱の少ない曲を指揮するときは、腕の加速や減速をできるだけなくし、打点を明確にさすりに動かすことがある。この振り方は「平均運動」とも呼ばれる。

②打点の位置が左右に正確で、打点の高さは変わらないようにしよう。また、打点を常にささぐくても、必ずしっかりと握る意識がいるからだろう。

③ガートの曲を指揮するときに、指揮の凹形を曲線的にして、速度を加速・減速を伴なが、滑らかに腕を動かして振ることがある。この振り方は「しゃくい」とも呼ばれる。

Exercise 1、2をしながら、Exercise3を参考に、《夏の思い出》(→P.52)の指揮をしよう。

Exercise 3

できるだけ腕の力を抜き、手首をしなくねさせないようじよう。

④運動感のある曲を指揮するときは、打点から腕を上げ、減速しながら次の拍に向かう指揮方針をすることがある。このときの形は「叩き」もしくは「しゃくい」と同じだよ。この振り方は「ね上げ」とも呼ばれ、次の例のように、指の握り方で始まる音型の入りを指揮するときに使われることがある。

例

予奏曲

1拍目

2拍目

3拍目

4拍目

⑤ね上げなどの速度を変えることによって、演奏者にこころの躍動感の度合いが異なることを理解しよう。

⑥ね上げ

Exercise 3 52ページ



次のページでは、
《夏の思い出》を用いて
実践的に学びます。

▼生徒の興味・関心や意欲を高めるような紙面の工夫

ジャズを学ぶ際のさまざまな観点を提示しています。

102

What is JAZZ?

ジャズは、19世紀末から20世紀初頭、アメリカのニュー・オーリンズを拠点に生まれた音楽である。誕生から今日に至るまで、さまざまなスタイルで進化し発展してきた。ジャズの魅力としては「独特なコードの書き」や「即興による自由な演奏」などが挙げられる。

ここでは、モダン・ジャズのスタイルを例に、プレイヤー（奏者）がどのように音楽を作り上げていくのかを知り、書きや雰囲気を味わおう。

ジャズの特徴（ジャズって自由?）

- シングルな楽譜
- リード・シートを使うことが多い。
- テンション・コード
- リード・シートに書かれているコード・ネームに、テンション・ノートと呼ばれる、ルート（根音）から数えて9, 11, 13番目などの音を加え、緊張感のある書きにする。
- 4分の4拍子の場合、2拍目と4拍目にアクセントを置くオーフ・ビート（アフター・ビート）と、 $\text{J} \cdot \text{J}$ のように振れるようにリズムで演奏することが多い。
- 即興演奏
- ジャズでは、メロディーだけではなくコードやリズムにもプレイヤーの独創性や表現力が反映される。

ジャズの歴史

1890年代 ジャズの誕生	主にアフリカ音楽のリズムやメロディーと、西洋音楽の楽器やハーモニーの要素が融合して生まれた。
1900~40年代 オールド・ジャズの時代	ブルースでの即興演奏を特徴とする「ニューオーリンズ・ジャズ」の後、ビッグ・バンドによる即興演奏の要素が弱いブンス音楽の「スワイング・ジャズ」が主流となった。
1940~60年代 モダン・ジャズの時代	ジャズの黄金期と呼ばれ、ダンス音楽から鑑賞する音楽へと変貌していく。即興的なメロディーや細分化されたリズム、絶妙されたコードを特徴とする「ビーバップ」。穢かなリズムや楽曲の統一感などの雰囲気を重視した「クール・ジャズ」、洗練された即興演奏でビーバップを発展させた「ハード・バップ」、旗艦（モード）を用いて從来のコード進行の規則から解放された「モード・ジャズ」などが生まれ、独創的な即興演奏によってジャズの可能性が広がった。
1960~80年代 フュージョンの誕生	コード進行にどうられない自由な演奏で自己表現を強調する「フリージャズ」、ロックやソウル・ミュージックとの融合が図られた「フュージョン」など、スタイルが多様化した。
1980~2000年代以降 さらなる多様化の時代	フュージョン全盛の後、60年代までのスタイルを取り入れて再構成したり、ヒップ・ホップと融合したりするなど、今も新しい道をたどっている。

スタンダード・ナンバー⁽¹⁾の「ねえ」を聴き比べよう

1スクリーン・ド・ナンバー：仄く和やかで、時代や流行に左右されない懐かしい人気をもつ曲。
2シャンソン：フランスのボレーラ・ソングで、人生の喜怒哀楽を歌うのが多い。
3クインティット：五重奏。

4ページ Drums!

103

各楽器の演奏例

ここでは、ジャズのピアノ・トリオ（ピアノ、ベース、ドラムスからなる三重奏）による《枯葉》を例に、各楽器の演奏例を紹介する。プレイヤーが用いる楽譜はリード・シートのみである。そこからプレイヤーたちは、どのような工夫をしながら演奏していくのか見てみよう。

piano
【ピアノ】

リード・シートに書かれているコードやリズムを変化させたり、テンション・コードや異なるコードに置き換えた上で演奏する。プレイヤーにはそれらを個性的に即興で展開していく演奏力が求められる。

bass
【ベース】

アンサンブルの土台となる低音を、主にコントラバスやエレキ（エレクトリック）ベースが演奏する。滑らかなベース・ラインを生み出すために、1拍目はコードのルートを弾き、続く2, 3, 4拍目に即興的に4分音符の音を入れる楽法がよく用いられる。

drums
【ドラムス】

曲頭に合わせたリズム・パターンを演奏しながら、即興的にアクセントを入れたり、フレーズのつなぎ目に短いリズム・パターン（フィル・イン）を加えたりする。

フレイルインの例

SD(ブランジ演奏)
RC(ヘイゼル操作のみで演奏)
SD(スティックで演奏)

標準的な演奏の構成例

インtro → テーマ → ソロ（各プレイヤーが別々に即興演奏をする） → テーマの再現 → エンドィング

鑑賞のポイント

ジャズについて理解したうえで《枯葉》を聴き比べ、さまざまなフレンジや演奏表現を味わおう。また、それぞれの特徴やよさを話しあおう。

Rock History 104ページ | バンド・アンサンブルに挑戦 106ページ | コード・ネーム 154ページ

(P.102・103)

▼学習をサポートする二次元コード

実際に目や耳で確認することで、知識を確かなものにします。

指揮の振り方を動画で分かりやすく解説

ピアノ・トリオによる《枯葉》の演奏

ジャズの演奏を映像で鑑賞

9

歌唱

多感な時期にある生徒が楽しく幅広く音楽を学習することができるよう教材を精選し、提示の仕方を工夫しながら、ポピュラー・ソング、唱歌、芸術歌曲、合唱曲、ミュージカル・ナンバー、オペラ・アリアなどを取りそろえました。特に、長い間歌い継がれ、親しまれてきた曲を豊富に収録するとともに、我が国の伝統的な歌唱も学習できるよう、能の謡を取り上げました。

ポピュラー・ソング

広く親しまれている《翼をください》《見上げてごらん夜の星を》《Memory》の他、生徒の心に響くポピュラー・ソングを新たに5曲加えました。

現在までの推移を10年ごとに区切り、それぞれの時代を彩った歌を1曲ずつ選びました。

2010年代《Lemon》(P.12・13)

2000年代《若者のすべて》(P.16・17)

1990年代《負けないで》(P.15)

1980年代《クリスマス・イブ》(P.115)

1970年代《翼をください》(P.14)

1960年代
《見上げてごらん夜の星を》(P.64・65)

1940年代《東京ブギウギ》(P.114)



(P.112・113)

「歌謡曲からJ-POPへの100年」では、
歌謡曲からJ-POPに
推移していく100年の間に、
楽曲の制作方法に着目

日本の歌曲

各曲に縦書き歌詞と伴奏譜を掲載しています。

掲載曲：《小さな空》武満徹 (P.22・23) / 《むこうむこう》中田喜直 (P.48) / 《この道》山田耕筰 (P.50)

合唱曲、ヴォイス・アンサンブル

三宅悠太氏の《ぼくは ぼく》(混三／伴奏付き)に加え、木下牧子氏の《おんがく》(混四ア・カペラ)、佐井孝彰氏の《言わない》(同三／伴奏付き)を新たに収録しました。その他、取り組みやすいア・カペラの入門曲やミュージカル・ナンバーも取りそろえました。

本書のための書き下ろし作品

(P.122~124)

伴奏付まで、
縦書き歌詞も掲載

●ミュージカル・ナンバー

《美女と野獣》(P.70・71)

●ヴォイス・アンサンブル

《サザエさん》(P.110・111)

●ア・カペラの入門曲

《懐かしきケンタッキーの我が家》(P.121)

心の歌

歌い継いでいきたい日本の歌を「心の歌」と題し、四季折々の美しい自然が感じられる曲を取りそろえました。齊唱、同声合唱、混声合唱など、さまざまな曲態で楽しめます。各曲とも縦書き歌詞を掲載しています。

掲載曲：《花》(P.21)／《夏の思い出》(P.52・53)／《虫のこえ》(P.85)／《冬景色》(P.118)／《故郷》(P.119)

日本の伝統的な歌唱

日本の伝統音楽への理解を深めることができます。能の謡を取り上げました。

掲載曲：《高砂》(P.80)／《羽衣》(P.81)

ヨワ吟で謡おう

一般《羽衣》から

【あらすじ】 桃源郷傳説。桃の木の間に住む桃源の娘(アカ)は、恋の木に咲いた美しい花をつか、それを舟に乗せようとする。そこへ入江(さかがわ)が現れる。「咲かない花で死んでしまう」と嘆く。天人は喜んで贈ると、三段の歌謡から富士の名前と贈り上げられ、最後に船へ乗っていく。ここで取り上げる詠嘆部分は、天人が毎晩に舟を披露しつつ天界へ帰っていく場面である。

物語の舞台となった三島の松原

●柔らかい息遣いで抑揚を付けて謡おう。

(謡い方のイメージを表した譜)

天人：桃源女

物語の舞台となった三島の松原

●柔らかい息遣いで抑揚を付けて謡おう。

(謡い方のイメージを表した譜)

天人：桃源女

物語の舞台となった三島の松原

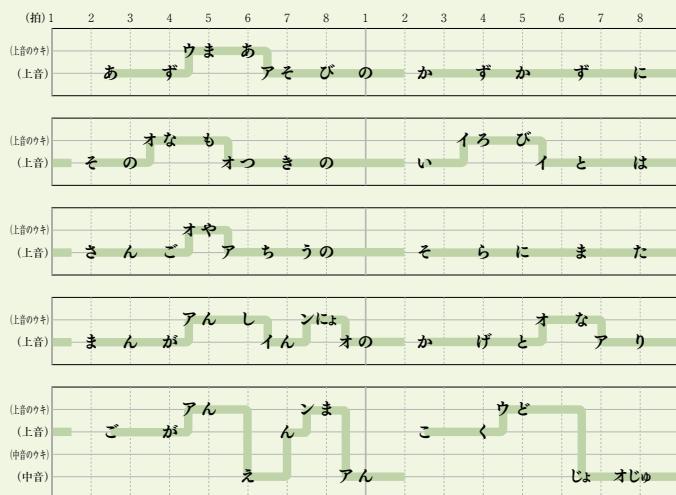
フジや朝霞、謡い方は演者によって少しずつ違うが基本。
●「高砂」の歌いごとの部分は歌はれていない。
●「ワ」では、「牛舌」で引れる歌を中心にして有音の歌が歌われている。「上音」は中音の完全4度上音で、歌詞の意味をよりよく表現するため、上音で歌われる歌詞が多い。
●タカラで書かれてある歌詞は「生字(あきじ)」と呼ばれる。音節が変わるために読み子を意識している。

謡い方のイメージを表した譜

●柔らかい息遣いで抑揚を付けて謡おう。

『謡い方のイメージを表した譜』

櫻井 寛 実譜構成



(P.81)

外国の歌曲

イタリア語とドイツ語の歌曲は定番曲を取りそろえました。日本語詞と原語歌詞の他、原語歌詞の意味も掲載しています。フランス語はポピュラー・ソングを取り上げました。

●イタリア語の歌曲

掲載曲：《'O sole mio》(P.25)

《Caro mio ben》(P.26・27)

●ドイツ語の歌曲

掲載曲：《Heidenröslein》シユーベルト (P.56)

《Heidenröslein》ヴェルナー (P.57)

《Ich liebe dich》(P.58・59)

●フランス語のポピュラー・ソング

掲載曲：《オー・シャンゼリゼ》(P.76・77)

ドイツ語やフランス語に

についても同様に、
発音の基本を解説

イタリア語の歌を歌おう

イタリア語の歌を歌おう。

その声、日本語とイタリア語の両方に歌ってみて、それぞれの音調のリズムやアクセントなどと両方についても見てみよう。

●「I」上の曲線に舌先を当てる。

●「r」巻き舌をする。ただし、rの前後が音の場合にはほどんど巻かない。

●「s」有音子音b, d, g, l, m, n, r, vの前は[x]となる。また、音母の間に挟まれた場合も[x]となることが多い。

◎ *sgrando(強張)* carissima(カリスマ)

musica(音楽) chiesa(教会)

●単語の中で同じ子音が二つ近くに収音のようになる。ただし、m'の場合は「ン」となる。

◎ *rosso(赤い)* latte(牛乳) mamma(母乳)

オラトリオや歌劇の歌詞はほとんど「歌文化」で作られている。そのため、単語一つを覚えると歌詞を読むときと歌詞を読むときとでは、アクセントが異なることがある。

●歌詞：本歌詞歌詞歌詞。母音と子音(例)などで一式の規則がある。

●音楽用語とイタリア語

楽曲に生き生きとした音色や音量の動きを表す言葉をまとめておこう。左側は、イタリア語で「歌本」で使われる言葉柄の形容詞たるは、17世紀のイタリアにおいててである。この時代、音楽の中心地はイタリアであった。そのため歌や用語は、その歌や用語を表す言葉である。イタリア語用いられ、形容詞や副詞などから派生した單語で示されることが多い。例えば、速さを表す *Allegro(速く)* を活用して調べてみよう。

音楽用語	記号	音楽用語の意味	イタリア語本歌の意味	日本歌会での使われ方
p (ピアノ)	弱く	弱く、静かに、ゆっくり	Parlare piano: 静かに落ち着いて話す	
f (forte)	強く	強く、激しく、おいしく	Piave forte: 激しく前に進る	
rit.	速く	躍進的、快活な	bambino allegro: 嬉しい元気な子ども	
allegro	速く	行く、動く、進むなどを意味する	mele andante: 今月	
andante	ゆっくり歩くような速さで	なるを意味する	bambino legato alla mamma: 絆つなぐ、結ぶ、離さないなど意味する	
legato	繋ぐ	繋ぐ、連続するなどを意味する	legare la pastorella: 連続する	
staccato	その音を短く切って	はがす、離すを意味する	quadrato staccato: はざれた歌詞	
dolce	甘く柔らかに	甘く、柔らかく、愛らなど(声肉でお菓子も意味する)	Maria sorrisse dolce: マリアは優しくほほえむ	

音楽用語とイタリア語についてのコラムも掲載

(P.24)

器楽

楽器や奏法の説明と、実際に演奏する曲の楽譜を見開きに配置し、常に確認しながら演奏できるよう紙面構成を工夫しました。また、ボディー・パーカッション、チャイムなど、グループ活動で協働しながら学習を進めることのできる教材や、さまざまな楽器編成によるアンサンブル教材など、バラエティー豊かな曲を取りそろえました。

ウクレレ

コード演奏やストローク奏法を無理なく楽しめるウクレレの教材を新たに掲載しました。
楽器や奏法についても詳細に説明しています。

掲載曲：《Michael, Row The Boat Ashore》(P.35)／《真珠貝の歌》(P.35)

楽器や奏法の説明と演奏する曲の楽譜を見開きに配置

34

Ukulele
ウクレレ

ウクレレとは、ハワイ語で「跳ねる車」を意味する、19世紀末、ポルタガスからの移民によってオーナーに似た小型の楽器がハイに持ち込まれた。やがて移植たちがハイの木材を使って楽器を作るようになり、「ウクレレ」と名付けられて名乗りました。

各部の名称

ノ・ウクレレ、コンサート・ウクレレ、テナー・ウクレレ、バリトン・ウクレレなどさまざまな種類があり、音色も異なる。一般的なウクレレといえば、ソプラノ・ウクレレ、コンサート・ウクレレ、テナー・ウクレレを指す。

姿勢と構え方

椅子に浅く腰掛けて背筋を伸ばす。ボディーを右肘の内側と胸の間に挟むように持つ。右手の人さし指は、爪の側面を弦に当てる。ヘッドが胸の切りにくるように机、ネック側を少し前に出す。立って演奏する場合も同じように構える。側面から見たところ、手で弦を押さえているのは、指を立ててフレットの跡近くを押さえ。

チューニング

チューナーを使って各開放弦の音を合わせる方法の他、まず第1弦の開放弦の音をピアノで合わせ、その音を基準に残りの弦を弦に合わせていく方法などもある。いずれの場合も、ベグを回して音高を調整する。なお、第4弦の音を1オクターブ低く調弦する場合もある。

ダイヤグラム

ダイヤグラムは、ウクレレの弦とフレットを模式化し押さえの位置を分かりやすく示したもので、横の弦が弦、縦の線がフレット、左端の二重線がナットを表している。

●は押さえの位置。その中の文字は左手の指を示している。実際にウクレレを構えたときは上記を逆に感覚することがあるが、図の上が第1弦、下が第4弦なので間違えないように注意しよう。

●ダイヤグラムの例 (Cコード)

Moderato G
Moderato C
Moderato A7
Moderato Cm

35

ストローク奏法で伴奏しよう

STEP 1 《Michael, Row The Boat Ashore》を歌いながら、ストローク奏法で伴奏しよう。「ストローク」とは、左手でコードを弾き、右手の人さし指でリズムを刻む奏法である。できるだけ本の音が同じになるように、第4弦から第1弦に向かって手番を支点に振り下ろして弾く「ダウン・ストローク」で演奏しよう。

人さし指の爪の側面を弦に当てる。

Michael, Row The Boat Ashore (ごげよ マイケル)

アフリカン・アメリカンスピリチュアル

使用するコード

使用するリズム

4分音符を示す

メモ 「私の歌を向こう岸(天国)へ運んで行ってください。」と歌われています。

使用するコード

使用するリズム

1:アップ・ストローク
8分音符を示す
メモ 上記のリズムに慣れたたら、でも演奏してみよう。

アップ・ストローク

アラウンド

ハワイ民謡

メロディー ハワイの伝統的な楽曲に英語の歌詞が付加されて、(Pearly Shells) (日本では「真珠貝の歌」として広まった。)

(P.34-35)

実際の演奏方法を動画で確認

ギター

3つのコードで演奏できる曲を取り上げ、ストローク奏法を学習します。
また、メロディーと伴奏(和音と低音)に分かれて楽しむことのできるアンサンブル曲も掲載しました。

掲載曲：《日曜日よりの使者》(P.38-39)／《第三の男のテーマ》(P.40)

アンサンブル

キーボード・アンサンブル用に編曲した《ミッション：インポッシブルのテーマ》を新たに掲載しました。また、ボディー・パーカッションやチャイムのアンサンブルでは、演奏する際の注意点や工夫例などを示し、グループで楽しみながら表現を深められるようにしています。

リコーダー

各学校や生徒の実態を考慮し、ソプラノとアルトのどちらでも演奏できる曲や、アルトの二重奏もしくはソプラノとアルトの二重奏で演奏できる曲などを収録しました。

掲載曲：《天国と地獄》(P.62)／《C-a-f-f-e-e》(P.62)／《グリーンスリーヴス》(P.62)／《ザナルカンドにて》(P.63)

和楽器

各学校の実態に応じてさまざまな和楽器を選択できるよう、篠笛、三線、三味線、箏の4種類を取り上げました。楽器や奏法の説明と演奏する曲の楽譜をそれぞれ見開きに配置しています。

創作

表現したいイメージを着実に作品にしていくことができるよう、具体的な例を挙げながら簡潔かつ丁寧に手順を示しました。また、歌唱や器楽の教材と関連付けることにより、取りかかりやすくなるだけでなく表現も深められるようにしています。

- ポピュラー音楽でよく用いられるコード進行をもとに、楽しみながらメロディーづくりに取り組みます。

116

創作4 「コード進行」をもとにメロディーをつくろう

ジャンルを問わず多くの曲の中で、順次下行するベース(低音)をもとにしたコード進行が用いられています。例えば、《負けないで》(→P.15)や《オーランゼゼ》(→P.76)、《クリスマス・イブ》(→P.115)などにもこの進行がみられます。

このコード進行をもとにメロディーをつくろう。

① 《クリスマス・イブ》を見てみよう。
下の楽譜は《クリスマス・イブ》冒頭のメロディーとベースを書き出したものである。

(クリスマス・イブ)
作曲: 下原邦也

ベースが順次下行している

メロディーには、主にコードの構成音が用いられているが、流れをよくするために、構成音以外の音や休符が挿されている。また、同じリズムやメロディーを反復させることで、曲に統一感を与えていることに気付く。

② メロディーをつくろう。
下の断片は、八長調でベースが順次下行するコード進行になっている。示されているコードの構成音(●を含む)を参考にして8小節のメロディーをつくろう。その際、キーボードなどを用いて、音を確認しながらつくるといい。

メロディーをつくろう。

手順1 まずは、最初の2小節をこの音を選んでもよい。音の

(P.116-117)

手順2 音型やリズムを反復、変化させて3小節目以降もつくり、メロディーを完成させる。

例1 4分音符を中心としたリズム
1~2小節目のメロディーを、音高を変えて2回反復させる
音型を少し変化させる

順次下行する
ベースを使用した
創作例

- 『星に願いを』のメロディーを用いて、変奏と編曲に取り組みます。

『星に願いを』
作曲: リー・ハーライン

【軽快でアップ・テンポな雰囲気に変化させる例】

例1 音を挿入し、音の動きを細かくする。
a. 音を挿入した音
b. 音を挿入した音

例2 休符を挿入する。
a. 休符を挿入した音
b. 休符を挿入した音

例3 付点音符やシンコペーションのリズムを用いる。
a. 付点音符を用いたリズム
b. シンコペーションを用いたリズム

(P.46)

創作1では、変奏方法の例を
分かりやすく提示

創作2では、キーボード・アンサンブルによる三重奏用の編曲手順を詳細に解説

手順1 3つのパート(メロディー、ハーモニー、ベース)にふさわしい音色(楽器)を選ぶ。
例: メロディー: ドランベット、ハーモニー: ストリングス(弦楽器)、ベース: ファゴットなど

手順2 ハーモニーパートをつくる。その際、コードの構成音を調べ、これとともに構成音の配慮を変えてみる。
ハーモニー
構成音
ハーモニー
ハーモニー
音の流れがスムーズになるよう、なるべく近くの音へ進行される

手順3 ベースパートの音を各コードの構成音の中から1音選ぶ。ルート(根音)や、コードを特徴付けている音(第3音など)にするよ。その際、キーボードで音を確認しながら、メロディーとのバランスを考えよう。
ルート
第3音

手順4 メロディー・パートがより引き立つように、ハーモニーとベースのパートに音や休符を挿入して、リズムを工夫する。その際、自分が表したいイメージと音色が合っているかどうかも確認する。

作品例
メロディー
ハーモニー
ベース
メロディーをはっきりさせるために休符を挿入
音を挿入したりリズムを変えたりして、より自然な動きにする

2 上の手順を参考に、『星に願いを』の結きを編曲しよう。また、強弱を考えたり、スラーやテヌートなどの記号を加えたりして、表現豊かなアンサンブル作品にしよう。

3 作品ができるたら発表し合い、意見を交換しよう。また、その意見を参考に修正を加え、よりよい作品にしよう。

コード・ネーム 154ページ ギター/キーボード・コード表 156ページ

(P.47)

- オノマトペを用いてリズム・アンサンブルをつくり、五線譜以外の方法で記録するユニークなグループ活動に取り組みます。
(P.86-87)

鑑賞

西洋音楽、日本の伝統音楽、世界の諸民族の音楽の全てにおいて「鑑賞のポイント」を示し、生徒が声や楽器の音色の特徴を感じ取ったり、音楽を形づくっている要素に着目したりすることができるようになりました。また、ジャズやロックをジャンルごとに掲載し、鑑賞と表現とを関連付けてより深く学習できるよう配慮しました。

西洋音楽

音楽を形づくっている要素の働きや表現方法の多様性を感じ取ることができる教材を精選しました。

組曲《動物の謝肉祭》(P.131)

交響曲第9番《合唱付き》から第4楽章 (P.132・133)

バレエ音楽《火の鳥》組曲(1919年版) (P.134・135)

ピアノによるさまざまな表現効果を聴き取ろう (P.136・137)

(P.134・135)

バレエ音楽
《火の鳥》組曲は、
各曲ごと物語の
あらすじを
結び付けることで、
音楽の描く情景を
容易に思い浮かべる
ことができます。

世界の諸民族の音楽

「声による表現」と「楽器による表現」という観点から、合わせて20種類の音楽を取り上げました。人々の美意識の多様性に目を向けることができるようになっています。

全ての音楽に写真が掲載され、参考資料としても活用できます。

(P.98～101)

実際に歌うことで表現の特徴を感じ取るための教材

日本の伝統音楽

それぞれの音楽の特徴を比較することができるよう、多種目の伝統音楽を取り上げました。日本音楽の流れを概観できる紙面構成になっているので、文化的・歴史的背景も学ぶことができます。

貴族社会と武家社会という対照的な時代
背景の中で整えられた雅楽と能を鑑賞

(P.78・79)

総合芸術である舞楽と能の鑑賞のポイントについて、音源のみで鑑賞する場合も想定して示しています。

オペラ

《カルメン》(P.72・73)

場面の状況や登場人物の心情などを把握しやすいことから《カルメン》を取り上げました。また、歌唱教材として厳選された2曲のアリアは、声楽家の宮本益光氏による日本語詞によって心情を捉えやすく、表情豊かに歌うことができます。

●オペラ・アリア 《ハバネラ》(P.74)

《闘牛士の歌》(P.75)

ジャズ

What is JAZZ? (P.102・103)

ジャズのプレイヤーがどのように音楽を作り上げていくのか、ピアノ・トリオを例に、実際に《枯葉》を演奏して体験できるよう紙面を工夫しました。

ロック

Rock History (P.104・105)

ジャズとともにポピュラー音楽の中心として発展を遂げてきたロック。1980年代を頂点とした歴史の流れについて、各ジャンルや代表的なアーティスト、曲やアルバムなどを紹介しながらまとめています。

資料

音楽を学習するうえで必要となる基礎的・基本的な知識の習得や、教科書の学習活動をサポートするコーナーを設けることで、生徒の表現と鑑賞の能力を育て、興味をもって主体的に学習できるようにしました。多くの生徒にとって「音楽を学ぶ」機会が音楽Ⅰで終わってしまう実情を踏まえ、卒業後も手元に残しておきたいと思える教科書になるような資料を豊富に取りそろえました。

基礎・基本の力

「ソルフェージュ」「楽典」などを取り上げ、音楽の基礎的・基本的な能力の定着を図るようにしました。

(P.18~20)

「楽譜を読めるようになつた」と
実感できるよう、豊富な課題を提示

歴史

「日本音楽の流れ」「西洋音楽の流れ」を簡潔にまとめて示し、鑑賞の際に歴史的背景も知ることができるようになりました。また、「郷土の民謡と芸能」「歌謡曲からJ-POPへの100年」においても、その歴史や背景を知って親しむことができるようになりました。

日本音楽の流れ (P.82~84)

西洋音楽の流れ (P.138~141)

郷土の民謡と芸能 (P.96・97)

歌謡曲からJ-POPへの100年 (P.112・113)

音楽の楽しみ

生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むことができるよう、さまざまな音楽に接する際の切り口を多様な観点から示しました。

Drums! 鼓動は時空を超えて (P.4・5)

アレンジャーは曲に魔法をかける (P.13)

舞台芸術 (P.66・67)

演奏会や観劇に行こう (P.69)

その他の資料

表現と鑑賞とを関連付けたページを含め、これまでに紹介した資料の他にも、教科書の学習活動をサポートするだけでなく卒業後も活用できる資料を豊富に取りそろえました。

ルールを守って音楽を楽しもう！ (P.31)

オーケストラを知ろう (P.148・149)

コード・ネーム (P.154・155)

ギター／キーボード・コード表 (P.156・157)

作曲家の年表と主な作品 (P.158・159)

コードの押さえ方を動画で確認

ギター／キーボード・コード表

ダイヤグラム
●…押さえる位置 X…弾かない弦 ▶…ルート ↓…セバード 2本以上の弦を左手の人差し指などで押さえる
1…人さし指 2…中指 3…薬指 4…小指 ダイヤグラム下の数字…フレット番号

(P.156・157)

年間指導計画例

(学校やクラスの実態に合った曲を主な教材の中から選択するとよい。)

月	配当時間	題材名	題材のねらい	学習目標	主な教材
4	5	曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう	曲にふさわしい発声などの技能を身に付けるとともに、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	校歌/Ave Maria 「ヴォイス・トレーニング」/小さな空 'O sole mio
6	7	3 ボディー・パーカッションや“CUPS”に挑戦しよう	ボディー・パーカッションや身近にあるコップなどを用いたリズム表現を通して音色や奏法、表現を工夫し、他者と協働しながら演奏する喜びを味わう	曲想と音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、他者と協働しながら自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する	Plymouth Rock Clap, Tap with CUPS! ソルフェージュ⑦～⑪
4	表現を工夫してリコーダーを演奏しよう	リコーダーの奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	曲想とリコーダーの音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する	見上げてごらん夜の星を/天国と地獄 C-a-f-f-e-e/グリーンスリーヴス ザナルカンドにて	
4	J-POPや歌謡曲の特徴を理解して歌おう	J-POPや歌謡曲を取り上げ、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解し、イメージをもって歌うとともに、自分や社会と音楽との関わりを考える	曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考え、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	Lemon/翼をください/負けないで 若者のすべて/東京ブギウギ/クリスマス・イブ/「歌謡曲からJ-POPへの100年」 「ルールを守って音楽を楽しもう!」	
3	「コード進行」をもとにメロディーをつくろう	多くの曲に用いられているコード進行をもとに、音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解し、さまざまな手法を活用しながらイメージをもって創作する	音のつなげ方やフレーズのまとまり、重なりによる響きを理解するとともに、反復、変化、対照などの手法を活用してメロディーをつくる技能を身に付け、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫する	「コード進行」をもとにメロディーをつくろう 「コード・ネーム」	
5	音楽を形づくつくる要素に注目して、曲のよさや美しさを探ろう	声やさまざまな楽器が生み出す響きやその特徴が、どのような要素やそれらの働きによってたらされているのかを探るとともに、音楽のよさや美しさを味わう	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価と根拠について考え、音楽のよさを自ら味わって聞く	「音楽を織りなすさまざまな要素」 組曲《動物の謝肉祭》/交響曲第9番《合唱付き》から第4楽章/バレエ音楽《火の鳥》組曲「西洋音楽の流れ」/オーケストラを知ろう	
2	能や謡に親しもう	実際に謡を体験して能の音楽の特徴を理解するとともに、能の魅力を味わう	能の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	歌唱：能《高砂》から/能《羽衣》から 鑑賞：能《道成寺》 「舞台芸術」	
9	6	表現を工夫してギターやウクレレを演奏しよう	ギターやウクレレの奏法を身に付けるとともに、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	曲想とギターやウクレレの音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する	ギター：日曜日よりの使者/第三の男のテーマ ウクレレ：Michael, Row The Boat Ashore/真珠貝の歌
10	8	日本や諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう	さまざまな言語による歌曲に親しみ、それぞれの特徴を理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、表現を工夫して独唱する	曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	むこうむこう/この道/「日本語と旋律」「詩の心を大切に歌おう」/日本語の歌詞の歌い方」/Caro mio ben/「Caro mio ben 大解剖!」/Heidenröslein(シューベルト/ヴェルナー)/Ich liebe dich オー・シャンゼリゼ
11	2	発音や発声を工夫して声によるアンサンブルをつくろう	オノマトペのもつリズム感やアクセントなどのおもしろさを生かして、他者と協働しながら表現を工夫してリズム・アンサンブルをつくりながら演奏したりする	オノマトペを音素材として用い、それを連ねたり重ねたりしたときの響きの特徴を理解するとともに、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽をつくる技能を身に付け、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫する	創作：オノマトペでリズム・アンサンブルをつくろう 歌唱：虫のこえ
12	8	表現を工夫して合唱やヴォイス・アンサンブルをしよう	各パートの役割を理解するとともに、全体の響きをイメージしながら表現を工夫して合唱やヴォイス・アンサンブルをする喜びを味わう	合唱やヴォイス・アンサンブルによる表現の特徴を理解するとともに、それを生かして歌ったり、他者との調和を意識して歌ったりする技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	花/夏の思い出/「指揮にチャレンジ」故郷/懐かしきケンタッキーの我が家 サザエさん/言わない/ぼくは ぱくおんがく
4	和楽器に親しみ、演奏に挑戦しよう	和楽器に親しみ、その音色や表現の特徴を味わうとともに、奏法を身に付け、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する	曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する	器楽：篠笛/三線/三味線/筝から選曲 鑑賞：筝曲《みだれ(乱輪舌)》	
2	世界の諸民族の音楽を知ろう	世界の諸民族の音楽を、声や楽器に着目して鑑賞したり歌ったりしながら、その音色や表現の特徴を理解する	世界の諸民族の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさを自ら味わって聴いたり、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫したりする	鑑賞：「世界の諸民族の音楽」 歌唱：京畿道アリラン 美しいエンメンタル	
1	4	ミュージカル・ナンバーを歌おう	物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して歌う	曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	歌唱：Memory/美女と野獣 鑑賞：ミュージカル『キャッツ』 ミュージカル映画『美女と野獣』 「舞台芸術」
2	2	作曲家の生涯と作品をたどろう	J.S.バッハやW.A.モーツアルトの生涯をたどりながら、それぞれの作品の特徴を理解し、魅力を味わう	曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解するとともに、曲や演奏に対する評価と根拠について考え、音楽のよさを自ら味わって聞く	「クローズ・アップ・マエストロ」 J.S.バッハ/W.A.モーツアルト
3	4	オペラに親しみ、アリアに挑戦しよう	物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して歌う	音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する	歌唱：ハバネラ/闘牛士の歌 鑑賞：オペラ『カルメン』 「舞台芸術」
4	4	さまざまな器楽アンサンブルを楽しもう	各パートの役割を理解するとともに、全体の響きをイメージしながら表現を工夫して器楽アンサンブルをする喜びを味わう	器楽アンサンブルによる表現の特徴を理解するとともに、それを生かして演奏したり、他者との調和を意識して演奏したりする技能を身に付け、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫する	ミッション：インボッシブルのテーマ タイムマシンにおねがい/星に願いを

主な学習活動	学習指導要領の内容																	
	A表現						B鑑賞						(共通事項)					
	(1)歌唱			(2)器楽			(3)創作			(1)鑑賞			音楽を形づくっている要素			内容の取扱い		
	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	音色	リズム	速度	旋律	強弱	形式・構成
曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きかせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●							●	●	●	●	●	(2) (4)
・リズムを正確に捉えるとともに、その重なり合いやつながりを意識して演奏する ・曲想に合った音色や奏法、パフォーマンスなどの技能を身に付け、表現を工夫する ・共通のイメージをもって、曲の特徴を生かした表現ができるよう試行錯誤したり意見を交換したりしながら演奏する				●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	(2) (4) (5) (8)
・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きかせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する				●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	(2) (4)
・曲について調べたり意見を交換したりして曲想と音楽の構造や歌詞、文化的背景との関わりを理解するとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考える ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きかせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●							●	●	●	●	●	(2) (4) (8) (11)
・コードの構成音をもとに音の組み合わせ方やつなげ方を試しながら、自分の表したいイメージに合うメロディーをつくる ・反復、変化、対照などの手法を用いてメロディーをつくり、つくれたメロディーにもう一つのメロディーを重ねたりする技能を身に付ける										●	●	●	●	●	●	●	●	(2) (3) (4) (7)
・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きに注目しながら鑑賞する ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて意見を交換し理解を深める ・曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う										●	●	●	●	●	●	●	●	(2) (4) (8)
・能を鑑賞したり能について調べたりしながら、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して謳い、表現に必要な技能を身に付ける	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	(2) (4) (6) (9)
・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏したり互いに聴き合ったりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きかせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する				●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	(2) (4)
・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きかせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●							●	●	●	●	●	(2) (4)
・オノマトペのもつリズム感やアクセントなどのおもしろさを生かして、それを連ねたり重ねたりしながら、パートの組み合わせなどを工夫してリズム・アンサンブルをつくる ・反復、変化、対照などの手法を用いてリズム・アンサンブルをつくる技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きかせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●				●	●	●		●	●	●	●	(2) (3) (4) (7) (10)
・一人一人が主体性を発揮しながら、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける ・各パートや指揮者の役割を理解するとともに、全体の響きやハーモニーをイメージしながら演奏する ・共通のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きかせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●							●	●	●	●	●	(2) (4)
・曲にふさわしい奏法、身体の使い方などに留意して演奏し、表現に必要な技能を身に付ける ・演奏したり鑑賞したりしながら、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きかせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する				●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	(2) (4) (6) (9)
・世界の諸民族の音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解しながら鑑賞する ・それぞれの音楽表現の共通性や固有性について気付いたことや考えたことを述べ合い、理解を深める ・アリアンとヨーデルの声の音色、リズム、旋律などの特徴を理解し、曲にふさわしい発声で歌い、表現に必要な技能を身に付ける	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	(2) (4) (8) (9)
・ミュージカルを鑑賞し、物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解するとともに、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったり、意見を交換したりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きかせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する										●	●	●	●	●	●	●	●	(2) (4) (8)
・作品を鑑賞したり、作曲家について調べたり、意見を交換したりしながら、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりを理解する ・曲や演奏に対する評価とその根拠を述べ合う										●	●	●	●	●	●	●	●	(2) (4) (8)
・オペラを鑑賞し、物語のあらすじや歌詞の内容、登場人物の心情などを理解するとともに、舞台芸術としてのオペラの特徴を知る ・曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などに留意して歌い、表現に必要な技能を身に付ける ・歌ったり互いに聴き合ったりしながら、曲想と音楽の構造や歌詞との関わりを理解する ・イメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きかせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する	●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	●	●	●	(2) (4) (8)
・一人一人が主体性を発揮しながら、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける ・各パートの役割を理解するとともに、全体の響きやハーモニーをイメージしながら演奏する ・共通のイメージをもって、音楽を形づくっている要素の働きかせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する				●	●	●	●	●	●				●	●	●	●	●	(2) (4)

指導書について

【指導書の構成】

研究資料編・楽譜資料編・指導用CD・鑑賞用CD(セット販売)……定価23,100円(本体21,000円+消費税)

研究資料編

年間指導計画例とそれに対応した題材ごとの評価規準例、学習指導案例などを複数掲載しています。
授業を多角的にサポートする資料を掲載しています。
ソルフェージュの補充教材を掲載しています。
音楽史や楽典などに関するEXERCISEを掲載しています。

◆楽典に関するEXERCISEの例

◆指導のポイントと楽曲解説をまとめた紙面の例

116

指導のポイント

- ・タイトルの「Ich liebe dich」は直訳する「私はあなたを愛す」だが、詩の内容は「私たちふたりを守り、生かしておいてください」と神に祈るものである。歌詞に温かい気持ちで歌う。
- ・3~4小節は、1~2小節より1音上がっており、情感の穏やかな高まりを感じながら歌う。
- ・29~31小節では、音高や和音の変化を感じるとともに、30~31小節の音階が拡大されることに注目し、願う気持ちの高まりを表現する。
- ・原語で歌う場合は、歌詞の読みやリズム読みの練習をし、滑らかに発音できるようにしておく。
- ・教科書に示しているカタカナ読みはあくまでもガイドなので、指導用CD①-26~29の歌詞や朗読を参考にして発音するとよい。

58 Ich, dich, mich(のち)。 イーツ ディッヒ
次歌の前に発音する。

○は最高音

Andante 高音域に没入して歌ひかねば。(以下)

音高を正確に

詠歌と同じ

フレーズのまとまりを意識して

アーティストの歌詞を参考

ドイツ語発音を参考

日本語発音を参考

楽曲について

1795年頃に作曲され、1803年に出版された。ベートーヴェンの歌曲の中でもよく親しまれており、その旋律はシンプルで素朴ながらも優しい叙情性にあふれている。ヘロゼーの原詩は3節あったが、ベートーヴェンは第2節から作曲している。原題は「Ärtliche Liebe(優しさ)」。

■カール・フリードリヒ・ヴィルヘルム・ヘロゼー Karl Friedrich Wilhelm Herosse 1754 ~ 1821 : 詳説不明。

■藤田圭雄 1905 ~ 1999 : 東京生まれの編集者、児童文学作家。1930年、早稲田大学独文科卒業。

■ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン P.247 参照。

282

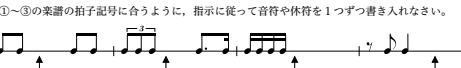
EXERCISE[楽典基礎編]

年組番
姓名

■次の各音の音名をドイツ語と日本語で書きなさい(1点、2点などの区別は書かなくてよい)。

ドイツ語 () () () () () () () () ()
日本語 [] [] [] [] [] [] [] [] []

■次の①~③の楽譜の拍子記号に合うように、縦線を書き入れなさい。

① 3/4 
② 4/4 
③ 6/8 

■次の①~③の楽譜の拍子記号に合うように、指示に従って音符や休符を1つずつ書き入れなさい。

① 3/4 音符 音符 音符 休符
② 4/4 休符 音符 音符 休符 音符 休符
③ 6/8 音符 休符 音符 休符 音符 休符

Och liebe dichは、第1拍以外のこのような動きをカウント(即ち部分は1小節の音数に満たない)ので完全音数にはなりません。また、歌の最後の部分は

■例を参考に、示された音程になるよう上下の音を右側に書きなさい。

例: 長3度 増1度 長2度 短3度 長3度 增3度 完全4度
減5度 增5度 長6度 減7度 長7度 減8度 增8度

※ワークシートやEXERCISEは二次元コードよりダウンロードすることができます。

楽譜資料編

歌唱教材の伴奏譜の他、移調譜や別の編曲なども随时取り上げ、指導の便宜を図っています。

指導用CD(2枚)

歌唱と器楽の教材の模範演奏、カラピアノ、合唱曲のパート別演奏(一部)などを収録しています。

また、イタリア歌曲とドイツ歌曲、フランス語の歌は原語歌詞の朗読、リズム読みも収録しています。

鑑賞用CD(4枚)

厳選した鑑賞教材を収録しています。

検討の観点別に見た特色

観点		教科書の特色
範囲	●取り扱う内容の範囲は、学習指導要領の目標及び内容によっているか。	●多様なジャンルから精選された教材によって必要な内容が十分に扱われており、音楽科の目標を達成するという観点から極めて適切なものとなっている。
程度	●教材は生徒の心身の発達段階や生徒の能力の実態に適応しているか。	●歌唱教材においては、生徒の心情的な発達段階に応じた楽曲が取り上げられている。器楽教材においては、各学校の実態や生徒の習熟度に応じた楽曲が取り上げられている。また、鑑賞教材についても同様の扱いがなされている。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ●(共通事項)は、学習指導を進めるうえで適切に扱われているか。 ●教材の選択及び扱いは、学習指導を進めるうえで適切であるか。 ●三つの資質・能力を育成することができるよう配慮されているか。 ●説明文やイラスト、写真などは、学習指導を進めるうえで適切であるか。 ●「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、配慮や取り組みはなされているか。 ●我が国の音楽や音楽文化に対する配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●表現及び鑑賞に共通する指導内容として(共通事項)に示された「音楽を形づくっている要素」に関する学習が示されており、その考え方の具体的なヒントとなる「音楽を織りなすさまざまな要素」が掲載されている。 ●幅広く変化に富んだ学習活動を行うことのできる教材が用意されており、生徒が興味・関心をもって意欲的に学習を進めることができるように配慮されている。 ●基礎的・基本的な知識及び技能の習得を目指し、生徒が確実に「分かる」「できる」を実感する教材や説明が適切に配列されている。 ●「思考力、判断力、表現力等」の育成を図ることができるよう、思考した内容を記述する例や生徒どうしの会話から曲の分析を行う教材などが掲載されている。 ●説明文は平易な文章で書かれており、その配置も工夫されている。 ●イラスト、写真の取り上げ方もアイディアにあふれ、音楽的感性を育成しながら知的理解を深められるよう配慮されている。 ●生徒が自ら主体的に学習活動を進められるように、各教材に学習内容や活動のポイントが明確に示されている。 ●創作の活動においては、生徒の能力に応じて弾力的に進められるよう配慮されている。 ●鑑賞の活動においては、日本独自の文化の中で育まれてきた音楽の特徴を感じ取ることができるよう配慮されている。器楽の活動においては、各学校の実態に応じて取り組めるよう4種類の和楽器が取り上げられている。歌唱の活動においては、能の謡の一部を体験することができる教材が掲載されている。また、音楽的側面からだけではなく、文化的側面からも捉えられるよう配慮されている。
構成	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校、中学校における学習内容との系統性、一貫性に配慮されているか。 ●各学校や生徒の実態に応じて学習指導計画を立てられるよう配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校、中学校の義務教育における音楽科の目標の上に立った内容の教科書となっている。 ●歌い継いでいきたい日本の歌を「心の歌」と題して小学校、中学校から一貫して取り上げており、日本の歌に対する配慮がなされている。 ●各教材に示された学習内容や活動のポイント、歌唱・器楽、資料の「ジャンル別MAP」などにより、各学校や生徒の実態に応じて学習指導計画を立てられるよう配慮されている。 ●表現教材と鑑賞教材との関連が図られており、複数の領域や分野を通じた題材設定がしやすいよう配慮されている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●教材の配列は適切であるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習指導要領の内容に即した教材が適切に配列されている。 ●表現教材と鑑賞教材との関連が図られているとともに、ページ間に張られたリンクによって、理解を深めたり関連付けたりすることができるよう随所に工夫がなされている。
	<ul style="list-style-type: none"> ●教材の分量は適切であるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●豊富な分量の教材が扱われており、各学校や生徒の実態に応じて柔軟に対応できるよう配慮されている。
人権	<ul style="list-style-type: none"> ●国際理解、情報、環境、人権教育などに配慮されているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全体を通して、人権教育に対する適切な配慮がなされている。また、諸外国の文化に対する理解を深めることについても配慮がなされている。 ●音楽に関する知的財産権について「ルールを守って音楽を楽しもう！」が掲載されており、生徒に分かりやすく説明されている。
体裁	<ul style="list-style-type: none"> ●全体の体裁は教科書として適切であるか。 ●印刷、製本などは適切であるか。 ●ユニバーサルデザインへの配慮がなされているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●A4判で楽譜が見やすく、紙面のレイアウトも統一感があり、教科書として適切なものとなっている。 ●表紙や扉からも音楽に対するメッセージが感じられる体裁となっている。 ●全ページにわたって美しいカラー刷りとなっており、楽譜、文字、イラスト、写真などが鮮明に印刷されている。 ●製本は長期の使用に十分耐える堅牢なものとなっている。 ●再生紙を使用し、リサイクル可能な表紙加工を施すなど、環境に十分な配慮がなされている。 ●全体に区別しやすい配色を用いながら必要に応じて形状や濃度を違えるなど、確実に識別できるよう配慮されている。 ●ユニバーサルデザインフォントが使用されており、誰もが読みやすい文章や楽譜となるよう配慮されている。

別売 鑑賞参考教材ソフトについて

教科書に掲載されている「世界の諸民族の音楽」の授業展開を強力にサポートする鑑賞参考教材ソフトが、Blu-rayで登場！迫力ある演奏のみならず、各国の風景や美しい民族衣装などの文化にも触れることができます。DVDをはるかに超える高解像度と、最新技術のマスタリングによる臨場感あふれるサウンドで楽しめます。



世界の民族音楽

● Blu-ray1枚／収録時間202分 ●価格19,800円(本体18,000円+税10%)

●全ての映像について、各分野の研究者によるライナーノーツ付き

この他、音楽鑑賞DVDでは「日本の伝統芸能編」と「民族編」を販売しています。どちらも鑑賞や音楽史の授業に最適です。



日本の伝統芸能編

● DVD1枚／収録時間126分

●価格19,800円

(本体18,000円+税10%)

●雅楽、琵琶楽、能楽、文楽、歌舞伎の成り立ちと魅力を紹介

●鑑賞演目は副音声解説付き



民族編

● DVD1枚／収録時間146分

●価格19,800円

(本体18,000円+税10%)

●38カ国、全59曲を収録

●民族音楽研究家、江波戸昭先生の解説付き

第1表

見 本

高等学校用教科書需要票

発行者	番号	27	略称	教芸	需 要 数	生徒用	150	冊
教 科 書	記 号	音I	番 号	703		教員用	2	冊
	書名	MOUSA 1						

所在地

学校名

電話

(全日制・定時制・通信制)



●本 社 〒171-0051 東京都豊島区長崎1-12-14

TEL.03-3957-1175(代)

●中部支社 〒460-0024 名古屋市中区正木4-8-7 れんが橋ビル8F

TEL.052-678-3151(代)

●関西支社 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1-14-17-601

TEL.06-6943-7245(代)

●西部支社 〒751-0808 下関市一の宮本町2-7-14

TEL.083-256-4747(代)

ホームページ <https://www.kyogei.co.jp/>